

高齢者介護施設での災害対策講座

昨年8月30日、岩手県岩泉町での豪雨災害によって、同町のグループホームで9人ものご利用者の命が奪われこれを受けて、厚労省から介護保険施設等における利用者の安全確保及び非常災害時の体制整備の強化・徹底についての通達が出されました。その中でも大規模地震災害対策に対しては、まだまだ多くの問題・課題を抱えているとおられるお声を多く聴きます。これまでに首都圏・関西圏で開催し、形式的な対策を排除し、実践的・現実的な対策にこだわった内容は、ご参加者に『知りたかったことがよく見えてきた』『良い意味で思っていた内容と違った』とご評価頂いているセミナーです。愛知県下におかれましては、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会様に於いて会員様向けのBCP作成研修の実績もあり、首都圏・関西圏の社会福祉法人様・医療法人様を中心に180法人様でのBCP作成実績を踏まえ一方通行の講義ではない、講師とご参加者がそれぞれのテーマについて一緒に考えて進めていくスタイルです。『担当者に任せているもののなかなか進展がない』『マニュアルを作ってはみたが、実際に役に立つか不安』といったお悩みを抱えておられる事業者様に対して、より実用的な対策やこれまで気が付かなかった課題を明確にします。

大規模災害時の福祉避難所を運営していくためにも、財務面での影響を抑えるためにもしっかりとしたBCPを作成しておくことが不可欠であることから、施設長様・事務長様・防災責任者様のご参加を強く推奨致します。

□日時/場所

・平成29年6月28日(水)

名古屋市総合社会福祉会館

名古屋市北区清水四丁目17番1号

受付開始13:00～ 講座13:30～16:15

※最寄り駅：地下鉄名城線「黒川」下車 徒歩5分

□お申込

・参加費 おひとり様 3,000円

(当日会場にてお支払いただきます)

この用紙のままFAXにてお申し込みください。

※お申込み受付後、弊社より会場の詳細なご案内を含めた『お申込み確認書』をFAXにてお送り致します。

□プログラム概要

- 岩手県岩泉町のグループホームでの被害を読み解く
 - ご利用者の生死を分けたターニングポイントとは？
 - 何が足りなかったのか？
 - 事業者問われる責任とこれからの動きとは？
- わかっているようで実は誰も指摘しない『事業者としての災害による本当のリスク』
- スッキリわかる地震災害対応の読み解き方
- ご利用者と職員を死なせないため今日からできる対策
 - 動けないご利用者を守るための対策とは？
 - 地震が起こった瞬間、職員はどう動くべきか？
- 事業の継続および再開のための主たる要因(最も重要なBCPの基本)
 - 発災直後に職員を『組織的・体系的』に行動させ混乱を抑える方策と初期行動マニュアル作成のポイント
 - 職員動員 ～より効果的な参集条件と職員動員の落とし穴～
 - 災害発生直後からの非常時体制の作り方と組織運営のポイント
 - 備蓄 ～みんなが見落としている最も重要な備蓄の基本～
 - 補給 ～備蓄はもって数日・・・もっと重要なこととは？～
 - 情報の受発信 ～扱うべき情報の種類と受発信の優先順位～
 - 地域からの避難者・要援護者の受け入れと在宅サービス再開 他

□講師 フォックスブルー株式会社 代表取締役 早川 英樹

1995年阪神淡路大震災で会社・個人ともに被災。その後復興推進プロジェクトのスタッフとして復旧・復興事業に関わる。高齢者介護施設を始め福祉施設の危機管理・危機対応にも関わり全国での危機対応・災害対応セミナーを多数実施。東京都福祉施設士会・東京都社会福祉協議会・横浜市社会福祉協議会・横浜市老人保健施設経営者会・千葉県社会福祉法人経営者協議会様に於いての講演実績等あり。

主催・お問合せ先：フォックスブルー株式会社 東京オフィス TEL 03-3358-2591 (担当：東山)

□セミナー参加申込書

FAX：03-3358-1954

貴法人名・事業所名	お電話番号	
	FAX番号	
ご氏名	お役職	
ご参加日	平成29年6月28日(水) 名古屋市総合社会福祉会館	